

地域の医療関係者と保健センターが連携した コロナ自宅療養者に対する医療提供の展開

田邊 裕

名古屋市保健所西保健センター所長
(前 中保健センター医務主査)

はじめに

1. 名古屋市保健所中保健センターについて

名古屋市は16区からなる人口230万人の政令市で、1つの保健所と、その支所としての16保健センターがあります。このコロナ禍においては名古屋市保健所が入院調整等の本部機能を持ち、16区の保健センターが前線で管轄区の患者対応を行う体制です。名古屋市保健所中保健センター(中保健センター)は名古屋市中区(中区)を管轄しています。

中区は、市役所や愛知県庁をはじめとする官公庁・ビジネス街や、栄・錦といった歓楽街、大須商店街などを抱える名古屋市の都心部です。そのため、非常に新型コロナウイルス感染症(コ

ロナ)患者が多い地域です。人口は10万人弱ですが、令和4年3月時点で累計のコロナ患者数は1万人を超えました。

2. コロナ患者の自宅療養と、保健センターの関係

医療機関はコロナ患者を確定診断すると発生届を居住地管轄の保健センターに提出します。コロナ患者はこの時点で患者として登録され、隔離期間に入ります。発症から10日経過し、かつ症状軽快から72時間が経過した時点で隔離解除となります。保健センターはコロナの隔離期間を自宅で過ごす患者(自宅療養者)の体調を確認する責任があります。中区では令和2年7月の第2波で自宅療養者に関する多くの課題を把握し、以降の波ごとに課題

の解決に向けた取り組みを行ってきました。その経験と取り組みをご紹介します。

1 中保健センターの経験と取り組み

愛知県でのコロナに関する波の定義と波ごとの中区患者数は図1の通りです。

1. 第2波での経験～自宅療養者の急増と課題の把握～

第2波では急増した自宅療養者の体調確認業務が保健センターの最重要課題になりました。当時は体調確認といっても電話で体温や各種症状を聞き取ることしかできず非常に判断が難しく、また自宅療養者に関するさまざま